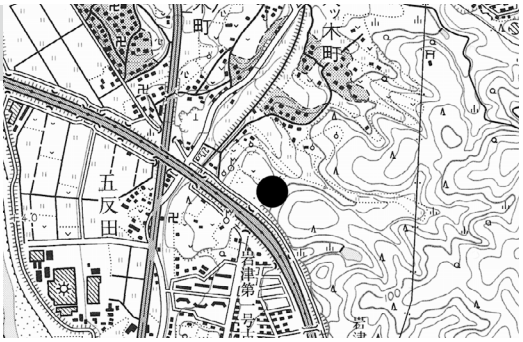
車塚（くるまづか）遺跡



調査地点（1/2.5万「豊田南部」）

所　在　地　岡崎市岩津町車塚
（北緯35度0分46秒 東経137度10分23秒）

調査理由　道路改良工事（主）岡崎足助線

調査期間　平成23年6月～8月

調査面積　800㎡

担　当　者　池本正明

調査の経過　調査は県道岡崎足助線改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。なお、車塚遺跡の調査は平成20年度からの４年間の継続業務として実施しているが、本年度で完了となる。

立地と環境　車塚遺跡は矢作川左岸に張り出す標高約40m～50mの丘陵端部に位置する。丘陵の南側縁辺部には於御所遺跡が存在し、遺跡の背後の丘陵上やその周囲には岩津古墳群・天神山古墳群・車塚古墳群・八ツ木古墳などの古墳が存在している。

調査の概要　本年度の調査区はA～C区の３地区で、11A区は09区の東側、11B区はその西側、11C区は10区の西側に位置している。以下、調査区毎に概要をまとめる。

11A区は09区の東側に位置している。調査区は長方形を呈する。近接する09区の東側は弥生時代後期～古墳時代初頭に属する竪穴建物と、古代を中心とする掘立柱建物が分布するが、11A区もほぼ類似した内容となる。このうち調査区南側で検出されたやや大型の竪穴建物（112SI）は注目できる。弥生時代終末期に属するもので、東側の隅が調査区外となるが、一辺約10m程度の隅丸正方形を呈する。また、これを切るやや大型の掘立柱建物もやはり東側が調査区外となるが、短辺は約8.0m、長辺は約10.5mまで確認できた。

B区は09区の西側に位置している。調査区は三角形を呈する。近接する09区の西側は遺構が希薄な部分となっており、11B区もこれとよく似た状況となっている。確認できた遺構は、現代の畑の区画溝とほぼ重なる溝（002SD）とこれに直交する溝（001SD）である。いずれも近世以降に属する。

11C区は逆L字状を呈し、10区の西側に位置する部分を11Ca区、ここから西側に伸びる部分を11Cb区に分割する。10区では7世紀代と考えられる古墳８基が集中して確認されているが、これに接する11Ca区では古墳の石室基底部と考えられる集石（060SK）が1基のみ検出できたに過ぎず、これに代わって弥生時代終末期の方形周溝墓が確認できた。方形周溝墓は10区の北側でも一辺のみ確認されているが、本年度はこれに連続する部分と新たに２基の方形周溝墓を検出した。方形周溝墓は08区南側でも2基確認されており、11Ca区北側周辺に方形周溝墓の分布域が存在していたものと考えられる。

ま　と　め　車塚遺跡の発掘調査は４年度に渡ったもので、遺跡の所在する丘陵の頂部を南北に縦断する総面積9640㎡を実施している。検出された遺構は弥生時代～古代が主要な時期になっており、大まかには北側斜面の08区と09区の北側が居住域、南側斜面の09区南側と10区、11Ca区が墓域と考えられ、南側に面した緩斜面上部に古墳と方形周溝墓が分布域を異にしていることが確認できた。一部の方形周溝墓の周溝からは、最上層で奈良時代頃の須恵器が出土している。古墳群を築造する段階では方形周溝墓の溝が完全に埋まった状態ではなく、古墳の築造時にこれらを避けたものと考えられる。（池本正明）

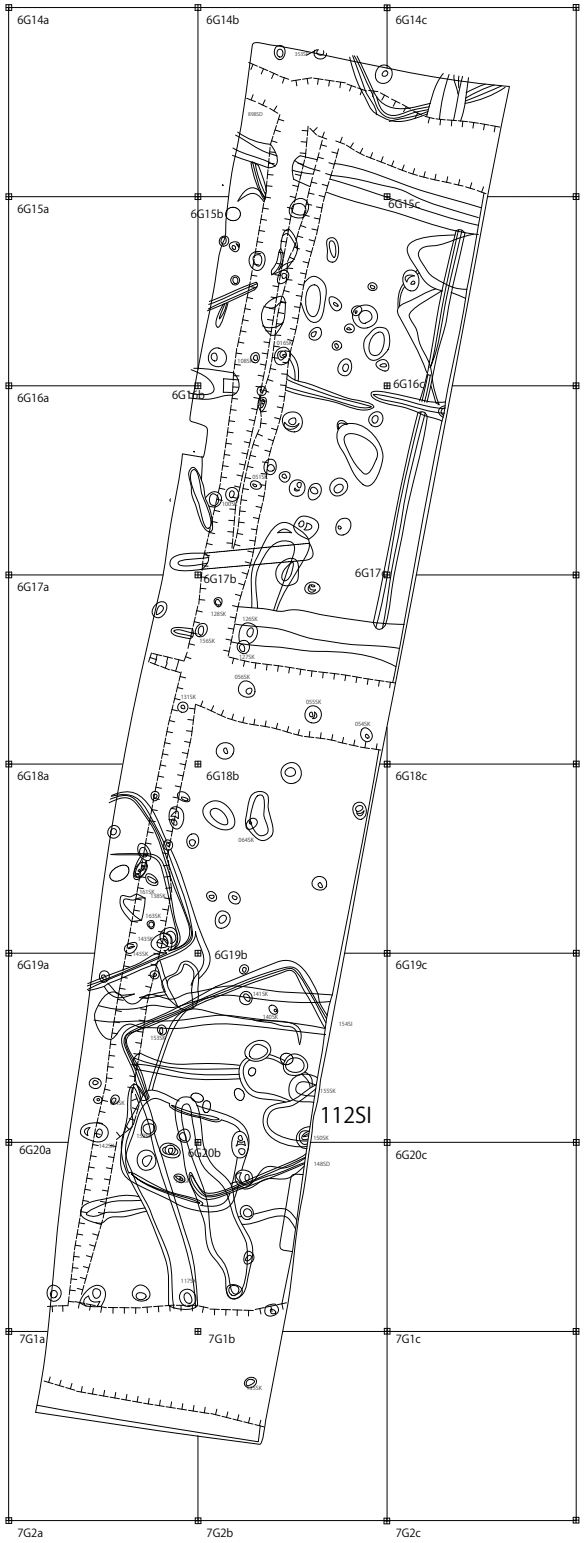


図１　A 区全体図（1:200）

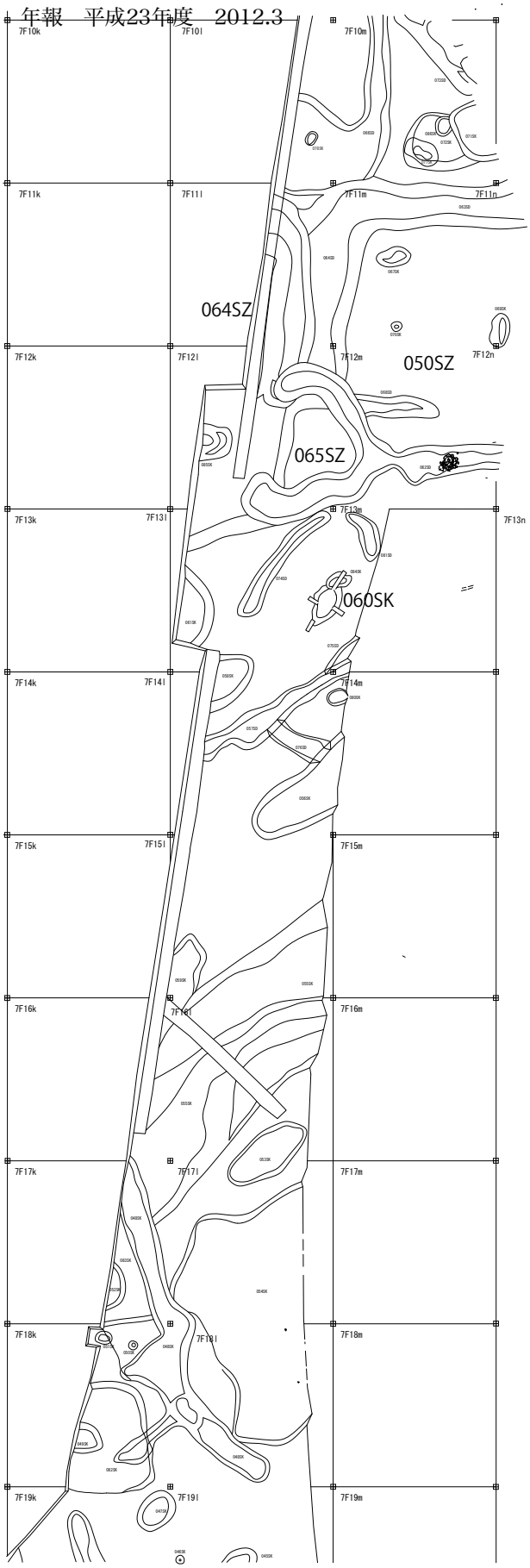


図２　Cb 区主要部分図（1:200）

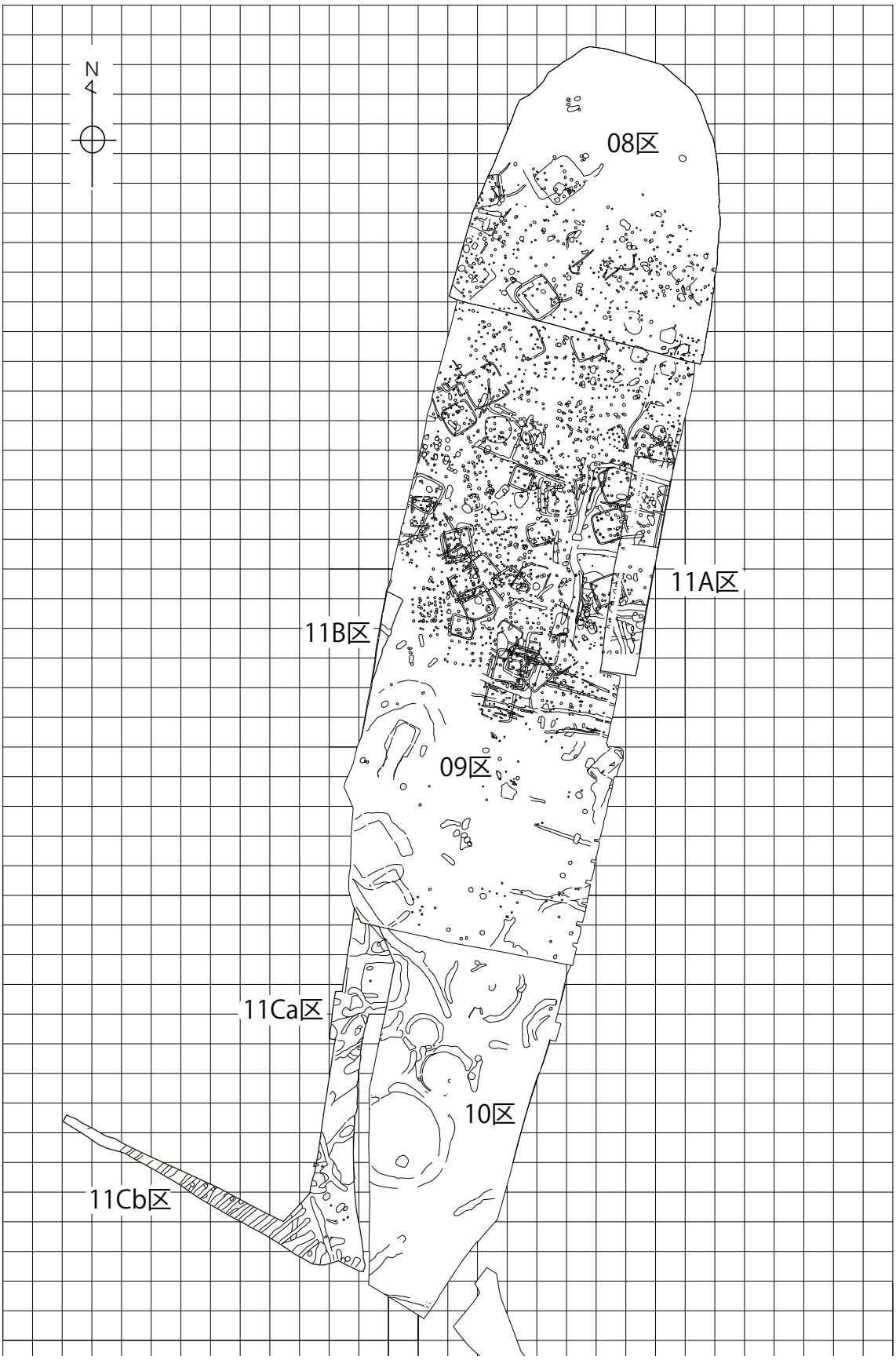


図３　調査区全体図（1:1000）

A 区全景　（南から）

A 区 112SI　（西から）

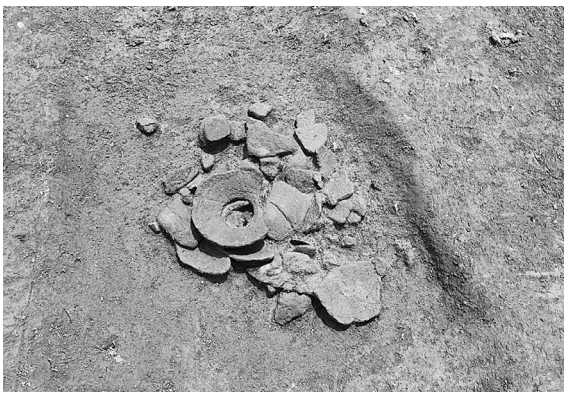
A 区掘立柱建物　（西から）

B 区全景　（北から）

Ca 区 060SK (西から)

Ca 区方形周溝墓　（北から）

Ca 区方形周溝墓　（南から）


Ca 区方形周溝墓遺物出土状況　（西から）